



第24回 蒼天祭より



目次

- 02 ■ 江別市議団来学
- 03 ■ 大学説明会開催
- 04 ■ 「宇宙のまちづくり」を進める大樹町を訪問
- 05 ■ 保護者との懇談会を実施
- 06 ■ 第24回蒼天祭
- 09 ■ ショートフィルムコンテストで特別賞受賞
- 10 ■ 大学院生の学会発表
- 11 ■ 自衛消防訓練
- 12 ■ 海外短期留学に参加して・中国編
- 15 ■ 海外短期留学に参加して・アメリカ編
- 18 ■ 外国人留学生の宿泊研修報告
- 20 ■ 学生の健康状態について
- 22 ■ 学生図書館利用アンケート調査結果
- 26 ■ Library News
- 27 ■ クラブ活動
- 28 ■ 大学主要行事等





江別市議会議員会の皆様が

本学を視察されました！

10月1日(月)に江別市議会議員会の皆様が本学を視察訪問されました。

江別市議会議員の皆様は、総勢三十名(議員二十六名、事務局四名)で本学を訪問され、まず、松尾記念館三階大会議室で大学関係者紹介、学長挨拶、江別市議会議員会長挨拶、視察希望でもある健康情報科学研究センター説明と続き、本学が行っている「食の臨床試験」の研究説明も含めて行われました。

その後、施設見学として、本学、国際交流センター及び隣接する北海道情報技術研究所を訪れました。

研究説明では、本学も参画している北海道フードコンプレックス国際戦略特区を展開するため、引き続き取り組んでいく決意をあらたにされたようです。

施設見学では、特に、江別市内を上から見渡すことができるeDCタワー十階からの展望に、大変驚かされていたとともに、初めての体験に非常に興味を持たれていました。

お聞きした話によりますと、江別市内を四方向一望できる場所は、他の施設には無いとのこと、非常に感激されていました。

江別市議会議員会の皆様は、本学が取り組んでいる教育研究内容について、よく理解されるとともに、あらためて江別市にこれだけの最先端の施設設備が整っている本学を視察することができ、大変有意義な研修となったようでした。

(総務課)



北海道情報大学 大学説明会開催



平成24年10月3日(水)京王プラザホテル札幌で北海道情報大学 大学説明会を開催いたしました。

この大学説明会は、本学が文部科学省から平成25年度からの改組改編(収容定員増に伴う認可申請並びに医療情報学部設置の届出)が認められ、本学の教育方針、特に改組改編について、企業、病院並びに高等学校等の方々に、広くご理解を戴くことを目的としたものです。

大学説明会は、長谷川学長の挨拶から始まり、基調講演として、北海道病院協会理事長・社会医療法人禎心会理事長の徳田禎久様による「北海道の医療の現状と課題」、宇宙航空研究開発機構情報・計算工学センター長の嶋英志様による「JAXAにおける先端的ITの研究と利用」が行われた後、中居常務理事による平成25年4

月1日から改組改編についての説明を行いました。

その後、休憩を挟み場所を移し、講演者をはじめ出席された方々と本学教職員による情報交換会が行われ、改組改編の内容や企業・病院などで必要とされている人材像などについて話題が尽きることなくお開きとなりました。

参加された百六団体百四十九名の方々からは、本学が取り組んでいる教育研究内容について、よく理解できたと大変好評でありました。

(総務課)



「宇宙のまちづくり」を進める 大樹町を訪問してきました

去る平成24年9月26日、本学システム情報学科に平成25年度から「宇宙情報システムコース」が設置されるのを機に、「宇宙のまちづくり」を進めている北海道十勝の大樹町を中居常務理事と事務局の佐々木顧問が訪れ、大樹町伏見悦夫町長へのご挨拶と新コースのPR、そして同町にあるJAXA大樹航空宇宙実験場を視察してきました。



2012.09.26

今回、伏見町長にお会いする機会を得ることができたのは、今夏、佐々木顧問が新設学部や新コースのPRで大樹高校を訪問したのがきっかけで、同校の飯森校長先生の計らいによって実現しました。

訪問の際には、伏見町長のほか、酒森副町長、大樹町教育委員会の小林教育長、そして大樹高校の飯森校長先生も同席いただき、次年度からスタートする「宇宙情報システムコース」をはじめ、本学のグループ企業である宇宙技術開発株式会社(SED)や本学園グループとJAXAとのかわりなど、中居常務理事の説明に熱心に耳を傾けてくだ

さいました。また、JAXAの幹部関係者の方には、伏見町長と共通のお知り合いが幾人かいらっしゃることもわかり、互いに話に実が入った様子でした。

本学が宇宙開発分野で活躍する人材をこれから育成していくにあたり、この分野に興味のある地元の子供たちにはぜひ注目してほしいし、大樹町にはJAXAの実験場もあるので、優秀な人材を地元に戻す道筋もつけていきたいという中居常務理事の言葉に、伏見町長をはじめ同席のみなさまからは、今後の本学の人材育成に対する期待のお言葉をいただきました。

JAXA大樹航空宇宙実験場は、大樹町とJAXAとの連携協力拠点で、大樹町多目的航空公園内にあります。多目的航空公園には全長一、〇〇〇mの滑走路と実験用航空機の運行管理や飛行実験、データ処理等を行うための飛行実験棟が整備されており、それに隣接してJAXA格納庫、飛行管制塔、気象観測設備などが整備されています。成層圏プラットフォーム定点滞空飛行試験をはじめ、小型無人機の飛行実験や、大気球などを用いたさまざまな宇宙科学実験が行われており、我が国の航空技術や宇宙科学研究の発展に大きく寄与しているとのことでした。

(広報室)



2012.09.26



保護者との懇談会を実施

平成二十四年度の保護者との懇談会を9月29日(土)に本学において一年生と三年生を対象に実施しました。

一年生の保護者懇談会では、長谷川学長から挨拶と本学の概要について説明があり、平子教養部長から教育目標と学生生活について、木田教務課長から教務関係について、中村就職部長から就職状況について説明の後、各クラス担任との個別面談が行われました。

また、三年生の保護者懇談会では、長谷川学長から挨拶と本学の概要について説明があり、中村就職部長から学生の就職支援について、谷川研究科長から大学院について説明があった後、各ゼミ担当教員との個別懇談を行いました。

この懇談会は、保護者の皆様に本学の教育目標や本学が目指す人材育成、教育の実情、就職状況等を理解していただくとともに、学生の学修状況や学生生活の現状、卒業後の進路等について個別に懇談できる機会としておりま

す。

今回出席いただいた保護者は、一年生の保護者七十四名、三年生の保護者六十二名でした。

保護者の皆様からは、担当教員との懇談と併せて、学生サポートセンター及び教務課で学業や学生生活の状況、卒業後の進路・就職活動などについて熱心に質問されておりました。

懇談会の合間に施設見学を実施し、新築されたeDCタワー、図書館の自働書庫や明るくゆったりとした閲覧室、学生が自由に利用できる学生プラザ、自習室等を案内させていただきました。学生のみなさんが整えられた学習環境の下で、充実した学生生活を送っていただけることをご理解いただけたことと思っております。

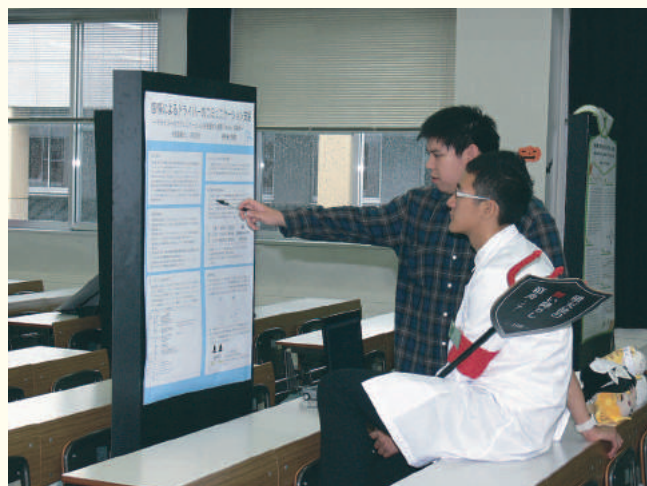
ご多忙中にもかかわらず大変多くの保護者の方々に、かつ遠方からもご出席していただいたことに感謝申し上げます。

(学生サポートセンター事務局)

第24回 蒼天祭

2012. 10. 06(土)~07(日)

PHOTO ALBUM





実行委員長を務めて

学生実行委員会

委員長 大川 麻子

今年度は計画停電が実施されるなど、環境を考える機会が何度かありました。そこで今年度のテーマは「Green?」。出店者の協力のもとエコ容器の導入、募金活動を行うなど環境を意識した企画・運営を展開しました。また、今年度は外部企画を充実させ、特に二日目行った移動動物園ではお子様をはじめ、多くの人で賑わいました。

一日目運営中強い雨が降ったのにも関わらず、二日目と合計し、延べ二千人を超えるお客様にご来場いただきました。

私自身、北海道情報大学大学祭実行委員会史上初の女性委員長として、頼りない部分もあったと思います。支えてくれる仲間の大切さ、共に一つのものを作りあげる喜びを知りました。仲間だけではなく、ご協賛いただいた企業様、ご協力いただいた大学関係各所・教職員・学生の皆様からの支えがあったからこそ第二十四回蒼天祭を成功させることができました。大学祭実行委員会を代表し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。





行啓通ショートフィルムコンテスト 審査員特別賞を受賞

情報メディア学部3年

渋谷敬佑

私たちは2012年9月23日(日)に札幌市中央区の山鼻小学校にて行われた「行啓通ショートフィルムコンテスト」にて、「審査員特別賞」を受賞しました。

今回の企画で私は初めて監督・脚本という立場を務め、すべてが手探りの状態から始まりました。企画は難航し、重圧から逃げたいという思いに負けそうになり、時には涙も流しました。今思い返してみると、作品と私自身に何が必要で何をしなければいけないのか、それが見えていなかったのではないかと思います。そんな私を助けてくれたのは周りの人たちでした。参加メンバーたちをはじめ、島田准教授、主催者の方協力店舗の方など、私は自分の思っている以上に多くの人に支えられ今回の作品を制作していました。

最後まで通した結果が、今回の「審査員特別賞」という賞に繋がったということは、今後の私の活動に大きな自信を与えてくれると感じています。また、監督という立場を経験し、自分の描きたい物語や絵を映像に起すということが素敵なことだと感じる事が出来ました。

今年経験した多くのことを、来年の行啓通ショートフィルムコンテストに参加する後輩たちに伝え、今年の先輩方がそうしてくれたように、来年は自分が後輩たちを支えてあげたいと思います。

(参加メンバー：渋谷敬佑／小野立太郎／谷英紀／山本龍広／中明寛人／佐藤真里子／坂元浩泰)



▼行啓通ショートフィルムコンテストとは？

行啓通の商店街と地域住民の交流、地域活性化のためのプロジェクト。参加者は、行啓通の商店やその周辺を舞台とした10分程度の映像作品を制作し、コンテスト形式で発表する。

2012年の賞には最優秀作品賞、審査員特別賞、観客賞の3つの賞の他に、実行委員長が気に入った作品に与えられるベン特別賞がある。



▼作品について

「Kathleen」(9分02秒／ED／カラー／2012年)

ある日、一人の男と一人の女がぶつかる。たまたま男の落とした名刺を女が拾い、男と女の交際が始まっていくが…。行啓通にあるギターショップを舞台とした、王道でストレートなラブストーリー

※Youtubeにて公開中



北海道情報大学

大学院 経営情報学研究科経営情報学専攻(修士課程) 発表報告

◎情報処理北海道シンポジウム2012

平成24年10月6日(土)に北海道大学情報研究科棟(札幌市北区北14条西9丁目)で開催された情報処理北海道シンポジウム2012において、本学大学院より阿部裕介君、横川祥司君(2名とも斎藤一ゼミ所属)が発表を行い、阿部君が見事「優秀ポスター賞」を受賞しました。情報処理北海道シンポジウム2012は全道の情報系大学より65件の発表(ポスターセッション)が行われました。阿部君は位置情報を利用したモバイルアプリケーションを江別まち歩きシリアスゲーム「Brick Story」として開発しています。この取り組みは、平成24年度江別市大学連携学生地域活動支援事業にも採択されており、精力的に江別市内の取材とシリアスゲーム開発を進めています。横川君は代表的なSNSであるTwitterを活用した、ツイート分析と感情語辞書に基づく観光アプリケーションを開発しています。

◎Peace As A Global Language 2012 Hokkaido

平成24年11月3日(土)にガトーキングダムサッポロ(札幌市北区東茨戸132番地)で開催されたPeace As A Global Language(地球語としての平和・ワークショップ)2012 Hokkaidoにおいて、本学大学院より服部裕樹君(谷川健ゼミ所属)が「Learning Groups in Programming」と題して講演を行いました。発表は富士副学長の紹介で参加することになり、講演および質疑応答は全て英語で行われました。



表彰状を授与される阿部君



発表中の服部君

情報処理北海道シンポジウム2012 (於：北海道大学情報研究科棟)

10月6日	阿部 裕 介	メディア制作論プログラム	修士課程2年
	地域振興のための江別まち歩きシリアスゲーム開発 —ジオメディアの活用と没入度の導入に関する考察—		
	横 川 祥 司	メディア制作論プログラム	修士課程2年
	ツイート分析と感情語辞書に基づく観光アプリケーションの開発に関する研究		

Peace As A Global Language 2012 Hokkaido, Japan (於：ガトーキングダムサッポロ)

11月3日	服 部 裕 樹	システム設計プログラム	修士課程2年
“Learning Groups in Programming”			



自衛消防訓練を実施

会計課長(防災管理者) 石川 弘行

平成24年9月19日(水)教職員及び学生による総合的な消防訓練を実施しました。この訓練は、火災などの災害の発生を想定し、消防計画に基づき火災発生時の消防署への通報、職員による初期消火、学生及び職員への非常放送及び避難等を迅速且つ安全に行い、被害を最小限にすることを目的に行いました。

消防訓練は、松尾記念館一階給湯室付近から出火の想定で、13時10分に火災感知器が作動し、非常放送(第一報)がかかると通報連絡班が火災現場に急行するとともに、記録班による訓練状況の記録を開始しました。

通報連絡班が火災現場確認後、出火場所等を非常放送(第二報)で連絡すると、消火班が火災現場に駆けつけ消火器及び屋内消火栓を使って初期消火(模擬消火)を行いました。また、講義中の教室では、窓を閉め、学生の点呼など避難準備を行いました。

13時13分には通報連絡班が江別市消防署に119番通報で火災発生(訓練火災)を連絡しました。一方、非常放送(第二報)を聞いて消防隊長(学長)、副隊長及び各班長が学長室に集まり緊急協議を実施。協議の結果、延焼の可能性が非常に高いと判断し、学生、教職員及び来学者の避難を決定。

直ちに通報連絡班が非常放送(第三報)で全員避難を連絡。搬出班は机等を避難場所に搬出して自衛消防隊本部を設置しました。

消防訓練当日は雨に見舞われ、昨年の消防訓練で避難場所としたグラウンドが使えず、訓練当日に避難場所を体育館に変更しました。この、急な避難場所変更があったにも拘わらず、避難誘導班の適切な誘導のもと、学生、教職員及び来学者は避難場所(体



育館)に迅速、且つ事故もなく避難を終えることができました。

学生、教職員及び来学者の避難と並行して、搬出班による重要書類の搬出、機器操作班による防火扉の閉鎖等、救護班による負傷者の救護等、自衛消防隊の諸活動を実施いたしました。

避難場所(体育館)において、消防隊長(学長)に対して各班から活動結果報告、点呼確認報告等が行われ、出火から二十分経った13時30分にすべての報告を完了致しました。これを受けて、消防隊長(学長)が江別市消防署の責任者に報告致しました。

13時36分頃から、江別市消防署職員ご指導の下、教職員及び学生代表による消火器の取扱い実技訓練を行い、13時41分に消防訓練は終了いたしました。

訓練終了後、江別市消防署責任者による講評があり、災害はいつ発生するかわからないので、日ごろから防災について関心を持つよう、注意喚起がありました。

最後に、消防隊長(学長)から訓示があり、常日頃、自分たちの避難だけでなく、周囲の人に目配りを心がけてほしいとの話があり、13時47分に無事終了いたしました。



中国海外短期留学に参加して

北海道情報専門学校 情報大学併学科

3年 細木 宏祥

中国の気候で驚いたことは、湿度の多さでした。北海道とは違い、湿度が高く、気温も高いので、暑く感じました。

南京大学はとても広く、宿舎から南京大学の門へ行くまでも、数十分くらいはかかるのではないかと思うほどの広さでした。授業は孟先生と阮先生という二人の先生が担当でした。授業時間は八時から十二時までであり、最初の二時間は孟先生で、章ごとの単語の勉強や読み方などの授業を行い、後半の二時間は阮先生で、前半の時間で覚えた単語で会話の練習をするという授業でした。中国語の日常会話から道の尋ね方、買い物の方、乗り物の乗り方など様々な場面での対話の練習を行いました。最初は読むことも難しく、聞くことも大変でしたが、研修の後半には、単語だけで分かることもありまし

た。

授業中は先生たちと楽しく勉強や会話ができたので、授業も休まずに行けました。特に、後半の阮先生の授業では、自分たちで会話を作る授業内容なので、ペアの方と考えながら文章を作り、発表することはとても楽しいものでした。

宿題が毎日あり、漢字の書き取り、発音、文章作成など様々なものがありました。その宿題のおかげで、難しい発音も少しは上手くなりましたし、漢字も覚えることができました。書

き取りの宿題は先生が単語を言い、それを漢字にするというもので、聞く力や、それを漢字に直すという覚える力の二つが鍛えられました。発音は教科書にある会話文を二人または三人で交互に読みあうので、上手く発音できるようになりました。

今までは、外国語も英語を少し覚えている程度でしたが、この留学で言葉の壁がとても高いものだと感じました。私は中国語もわからず、英語も少しの単語しか知らないもので、現地の方々とコミュニケーションを取るのにも苦労しました。買い物や食事などで値段は聞けるようになりましたが、向こうから話しかけられると、言葉が分からずに、無言になってしまうことがあり、自分の勉強不足がよく分かりました。次に海外へ行くときには、もう少しその国の母国語もしくは英語を勉強しなければならぬと感じました。

また、中国の文化に触れるということで、紙切りと水墨画、太极拳を学びました。紙切りは一回しか学べませんでしたが、中国で幸せを呼ぶという双喜字や、自分が選んだ紙を切りました。上手く切ることができませんでしたが、楽しく行うことができました。水墨画は二回行い、最後は扇子に絵を描くというもので、描いているときは上手にできていないと感じましたが、遠くから見ると、上手くできていたので、とても満足しました。太极拳は、南京にいるときには毎週一回は行いましたが、自分が考えていたものとは違い、ゆっくりとしたスピードで行われました。動いている速さ自体は遅いのですが、じんわりと汗をかいて、スポーツ



をしている時とはまた違う感じでした。南京では、勉強だけではなく、中国の文化を直に体験することができたので、とてもよい経験になりました。

中国歴史を学ぶ場として、総統府へ行きました。総統府は、清朝の中国で大きな反乱を起こした太平天国の天王府の跡地であり、ここには孫中山の執務室や蒋介石の執務室、防空壕などがあります。部屋の中身はそのまま、当時の雰囲気を感じ取ることができました。

9月1日に北京へ移動しましたが、北京の気候は北海道に近く、湿気も少なく過ごしやすい気候でした。北京では万里の長城へ行きました。万里の長城には女坂と男坂の二つがあり、今回は男坂を登りましたが、下から見上げると階段が果てしなく続いていました。反対に上から下をのぞくと、急すぎて階段が隠れることもあり、足を踏み外すと落ちてしまうくらいの角度でした。しかし、頂上に着いた時の達成感と解放感はとても良くて、頂上に着くまでの辛さがあるので、万里の長城は一番心に残りました。

最初は中国に来て、無事に帰れるかと心配の方が多くありましたが、大学から参加した方々とも仲良くなれましたし、引率していただいた田中先生、玉置先生と過ごした一カ月は忘れられないものになりました。この留学では、中国のことを少し知ることができたに過ぎません。ですから、機会があれば、中国のこと、また中国と日本との関係などについて、さらに勉強して、将来に繋がることに取り組みたいと考えています。また、違う国を訪れて、また違う習慣や歴史を肌感じて、自分なりに成長できたらいいと思っています。

中国海外短期留学に参加して

北海道情報専門学校 情報大学併学科

3年 嶋田 崇志

この二十八日間の中国短期留学は、私自身の物事に対する考えや、将来の生き方などのあらゆる方面において、大きな影響を与

えるすばらしい体験になりました。特に、今まで海外

に行ったことがなかったので、自分の知らない土地でうまくやっていけるかという不安と、中国とはどんな国なんだろう、という興味がありました。それと中国に行く前のイメージは、あまり良くな

く怖いところだと思っていました。しかし、実際に行ってみると、イメージとは全然違っていました。最初の話すこともできませんでしたが、話をしてみると、みんなとても親切で、日本とあまり変わりませんでした。

今回の留学で最も印象に残ったことは、「生きた言葉」でした。留学に行く前に、大学の授業で中国語を受講しており、多少は聞き取れるものだと思っていました。しかし、実際はそんなに甘いものではありませんでした。スーパーへ買い物に行ってみても、教科書で習ったシチュエーション通りには行かず、買い物するだけでも一苦労でしたが、私にとってはとても貴重な経験でした。

南京大学では、中国人の先生に中国語を習いました。日本語がまったく通じないため、話していることを理解するのはとても難いと感じました。他にも日本と同じ漢字を使っているのも、意味や発音が違うため、覚えるのが大変でした。しかし、授業を受けていくうちに、先生の言っていることが少しずつ理解できるようになっていきました。生きた言葉に少しずつ慣れてきたと自信を持って、自分で話そうとしてみると、言いたい言葉が出てこなかつ





たり、また出てきたとしても、言う勇気が出ず、自分からはなかなか話すことができませんでした。しかし、勇気を出して中国語を使ってみようと考えました。はじめは笑われましたが、ちゃんと返事を返してくれました。通じたことがうれしくて、それから積極的に中国語を使うようになりました。最終的には、簡単な会話ができるようになり、会話ができるようになりました。普段通っていたお店の人とも仲良くなって、食事の際などに、彼らがサービスをしてくれるようになりました。この調子で、中国語をさらに学びたいと感じました。

28日間の中国生活で感じたことは、まず人の多さです。どんな時間にどんな場所に行っても、常に大勢の人がいて、気を抜いたらすぐにはぐれてしまいそうになるぐらいでした。またスクーターの数も、とても多かったです。中国ではスクーターを乗るのに免許が必要ないようで、日本の自転車のような感覚でスクーターが走っていました。道路では、自動車が優先で、ちょっとでも危ないと、すぐにクラクションが鳴っていました。日本ではあまり聞かないので、最初は驚きました。他には、日本に行ったことがある中国の人に話を聞いてみると、日本のお店などのサービスの

良さに驚いたそうです。この点は、

中国で生活してみても、自分も気づかされました。一番はスーパリーなどで売っている物や食事の時の値段の安さに驚かされました。このことは日本に帰ってきてからもまだ慣れず、どんな商品を見ても、その値段は高く感じてしまいます。

スポーツでは、卓球やバスケットボールなどが人気でしたが、日本とは違って野球はあまり人気ではなく、スポーツシヨップなどに行っても、野球道具が売っていないことが少し残念でした。

中国での生活は、日本での生活とは全く違って、非常に内容の濃い、充実したものでした。中国に行った初めのうちは、二、十八日間がとて長いものだと感じていました。半分が終わったぐらいから、進む時間が速く感じられ、「もっと中国にいたい」と思うようになりました。今回の留学で、中国のことが以前よりも好きになり、もっと長期で留学したいと思うようになりました。今後も中国語を学習し続け、また中国に行きたいと考えています。そのときには、今回できなかったことをできるようにしたいと思います。この留学での経験を次のステップとして、役立てたいと思います。





海外事情に参加して

経営情報学部システム情報学科

3年

葛西 大

今回、シアトルに留学しようと思ったのは単純に「日本以外の国ってどんな感じなのか？」っていう理由だけでした。まったく、英語の勉強しに行きたいと思って留学したわけではありませんでした。なぜなら、わたしは英語にす

ごく苦手意識がありました。英語は、読むのも書くのも、もちろん話すのでもできませんでした。なので、ホームステイがすごく嫌だなと思っていました。しかも、今回が初めての海外に行くのでいろいろ不安がありました。しかし、行ってみたらすごくいい経験になりました。まず、一番心配だった英語は自分が思っていたよりできて、さらに話そうと思うようになりました。留

学する前は、ホームステイ先の家族とも全然話を通じないと思うし、そんな一か月程度で話せるようになるわけがないと思うぐらいでした。けど、一週間たったらだいたいどんな話をしてるか聞き取れるようになって、自分から話してみたいなって思うようになりました。そして、実際にホームステイ先の家族とかと会話して文法とかぐちゃぐちゃな英語でも通じたとき、感動しました。今度、このような留学するチャンスがあるならば、英語の勉強をしに行きたいです。

今回の留学で一番感じたのは、言葉の壁の厚さでした。自分が思っているよりも言葉の壁は薄かったように感じましたが、実際に生活すると通じないことはわからないことがたくさんありました。そしてなにより、話しかけられているのに答えられなかったのが一番悔しいと思えました。それと、やっぱり海外で生活するなら英語は必須なので自然にしかも早く英語を覚えられると感じました。

留学する前とあとで一番変わった心境は、アメリカに住んでみたいと思うようになりました。英語を話せるようになりたいっていうのもあるのですが、やっぱり、国が違ったら住んでいる人も違って、アメリカの人はすごくフレンドリーで街を歩いているだけでも声をかけられます。留学中、私は何度も声をかけられて、すこし羨ましく感じました。なぜなら、日本ではなかなかないからです。



短期留学について感じた事

情報メディア学部 情報メディア学科

1年 新保 花女

私は、大学に入学する前から留学することを決めていました。

私は、ディズニー作品、ピクサー会社のアニメ、洋画を小さい頃から好んで観ていました。このような魅力的、独創的な世界観の作品を生み出している国はどんなところなのか知りたいと興味を持った事が留学のきっかけです。

それから私は大学に入学し、アニメや動画を作る技術を学ぶため、メディアデザイン学科に入ることにしました。

直接的にはつながらなくても海外での生活で、何か感じられること、見ることで、作品に生かせることができるだろうと考え、一年の最初の夏に短期留学を決意しました。

何から語学の勉強をしていいかわからず、とりあえず問題集を解いていましたが、向こうの生活では全然歯が立ちませんでした。しかし向こうの大学の先生からご指導いただき少しでも会話ができた事



にとてもうれしきを感じました。とくに印象的なものでは、飛行機会社の boeing、スポーツの boeing、暇という意味の boeing の発音が聞き分けができなかった事です。そしてアメリカの授業スタイルは、読み書きもありますが、会話をする授業がありとても実践的だと感じました。使える英語を学べることができ、日本でも取り入れるべきだと思いましたが、ホームステイ先には中国人留学生さんがいて私と会話するときは、英語でした。いまや当たり前のことですが、私はとても不思議に思いました。日本と距離が近いのは中国なのに英語を話さなければ会話が成り立たないことです。

この瞬間を目の当たりにし使える英語が必要だと強く思いました。

ホームステイ先や、学校の生活の中で、様式がことなることは多かったのですが、驚きとともに良い刺激になりました。

ゴミの分別の少なさ、車のスピードや平日の渋滞、人がフレンドリーだったこと、食事をした後の会計は席で行うこと、ユニットバスだったこと、セラブ住宅地にはプールがあること、すべて私には新鮮でした。そして知ることはとても楽しかったです。

英語が話せる世界の方とお話ができることができるというすばらしいことを知った私は、これからの大学生活で勉強し、今回の留学を踏まえて、次回の留学は新しい事をしていきます。

海外事情に参加して

経営情報学部システム情報学科

4年

大島 章伸

私は、今回の留学で三週間という短い間でしたが、いろいろな経験をすることができました。

私が今回の留学に参加しようと思ったきっかけは、大学の最後の思い出に一度海外で英語を学ぼうと思ったからです。三週間という期間は決して長い期間ではありませんが、それでもアメリカに行った価値はあったと思います。

私が英語を少しでも学ぼうと思った理由は、現在多くの国で話されている英語を通じて、様々な文化を学びたいと思ったからです。

今回の留学では、午前中に英語の基礎を学び、午後はセミナーへの参加や現地の観光などを行いました。

英語の学習では、日本の一般的な授業とは違い、学生が自ら考え、授業に参加する形式であったため、とても面白い授業でした。私は英語がうまく話せるわけではありませんが、知っている単語や辞書で調べた単語などを活用し、現地の先生に助けられながらなんとかテーマについての意見を述べるようにことができました。日本語でも意見を伝えることは大変ですが、英語ではもっと大変でした。しかし、この授業を通じて、日本とアメリカの文化の違いや価値観の違いなどを表現することができました。

また今回一番もどかしい思いをしたのは、ホームステイをした時です。ホームステイ先の家族はとても親切で、私たちにいろいろな教えてくれました。私はホームステイの家族が何を言っているのかわかっていましたが、こちらから何を返信していいのか全く分からず、会話が止まってしま

う時が多くありました。そんな時は、ホームステイ先の家族が、私をフォローしてくれましたが、私はもっと英語をしゃべることができていればと何度も後悔しました。しかし、なんとか自分の気持ちを伝えるようとしているうちに、少しは自分の気持ちを英語で表現できたのではないかと思います。

今回の留学は三週間というとても短い期間で、英語で自分の思っていることを伝えることはできませんでしたが、私はもっと英語を勉強して、ぜひ自分の考えや相手の考えを英語によって交換したいと思っています。また、今後も海外へ留学する機会があればぜひ参加したいと思っています。



留学生の宿泊研修報告(大沼国定公園、函館市街)



国際交流・留学生支援事務室 室長 今 長 豊

平成24年11月3日(土)から11月4日(日)、外国人留学生と異文化交流会の日本人学生、引率教職員の総勢七十名が宿泊研修を行いました。

行先は全国でも観光地として人気の高い道南の函館地区です。

今回の宿泊研修は本来の目的である「学生同士の交流を深める」「集団行動時のマナー学習」に加えて、昨年3月に発生した東日本大震災で今も続く福島原子力発電の事故の影響、今年の夏からの尖閣諸島領有権をめぐる悪化している日中関係の状況下で、中国にいる留学生の家族や関係者たちが本学に在籍している留学生の日本での生活を様々な思いで心配していることに対して少しでも不安を取り除いてもらうことも目的のひとつにしました。

11月3日は小雨で寒くあいにくの天気でしたが、時折晴れて雲間から指す太陽の光で大きな虹ができ、青い海と、紅葉が覆われた山々間との虹の架け橋となり幻想的な光景を観ることもできました。秋深い北海道の大自然を車窓から楽しむことができ、片道5時間の移動も苦にならずに過ごすことができました。

お昼過ぎには新日本三景のひとつの景勝地でもある、大沼国定公園に到着しました。雄大な渡島駒ヶ岳を観ながら湖沼を





囲む林の中を散策することができとても癒
されました。

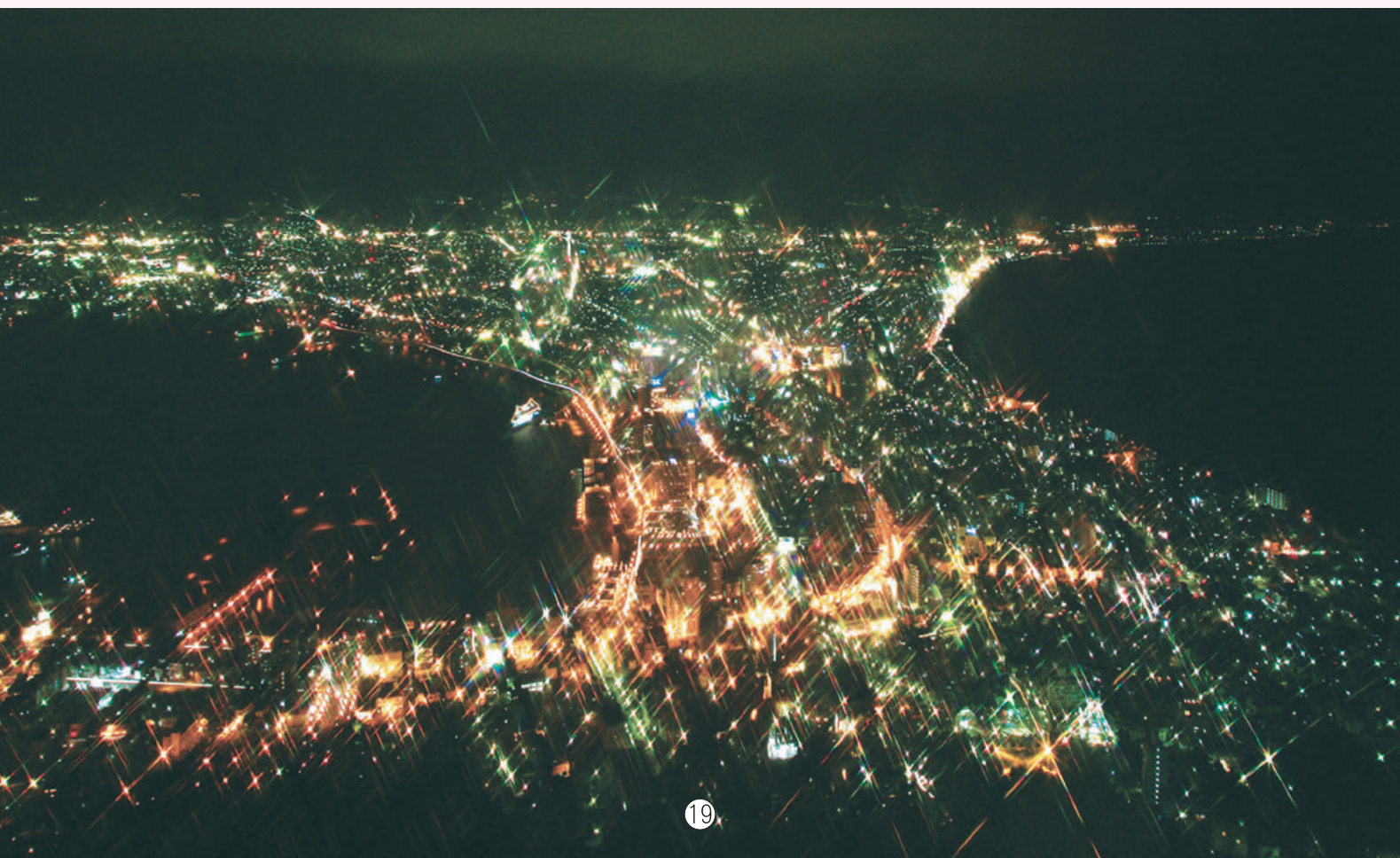
また、夕方から夜にかけて眺めた函館山
からの夜景はミシユラン・グリーンガイド・
ジャボンで三ツ星に指定されただけのこと
はあるすばらしい景色でした。

夜は湯の川温泉の露天風呂も楽しむこと
ができ、普段大学のキャンパスでは見かけ
ない陽気な表情ではしゃぐ浴衣姿の留学生
もいました。

二日目は好天になり、津軽海峡対岸の青
森県側の陸地を間近に眺めることができま
した。午前中は幕末から明治にかけて海外
に開いた歴史的な港でもある函館港周辺を
自由に散策しました。

移動時間が長いことや、午後からの天候
も気になり、二日目は早めの帰路につくこ
とになりましたが、おかげ様で、宿泊研修
自体は無事に楽しく終えることができ、留
学生にとっても充実した二日間を過ごすこ
とができたと確信しています。

そして母国にいる留学生の家族や関係者
の皆様にも、留学生達が日本で元気に有意
義な留学生活を送っていることを知ってい
ただき少しでも不安を取り除いて安心して
いただけることを願っています。



状態について

3. 生活習慣

睡眠時間は5～6時間、6～7時間がそれぞれ30%台です。5時間未満の学生では、アルバイトで深夜に帰宅したり、アルバイトそのものが深夜帯の学生もいます。また、携帯電話・パソコン等の影響も大きいと思われます。最低6時間前後は睡眠を取りたいですが、短時間でも熟睡し疲労が取れるよう、入浴後に入眠すると良いでしょう。夜間の明かりは、メラトニンの産生を減らし覚醒させ、生活リズムが狂います。うつ病や不眠などに、高照度光療法があるくらいですので、「太陽に合わせて」生活し体内リズムを整えましょう。枕の工夫も大切です。

運動習慣は、20%が「ある」と答え、75.5%が「なし」でした。大学生になると、「運動する・しない」は自身の意志によるところが大きいです。普段の生活の中で、心掛けて歩くことが大切です。人間にとって「歩行」が運動の基本です。バスを一駅前に降りて歩いてみませんか？ 歩くことにより「ふくらはぎ(第2の心臓)」が動き循環が良くなり、身も心もすっきりします。

朝食は約64%の学生が食べています。食べる量はあくまでも体質によるため、沢山食べれば良いというものではありませんが、早起きをし、起きがけにまず適度な水分を摂り、自分に合った量の朝食を摂りましょう。

4. タバコについて

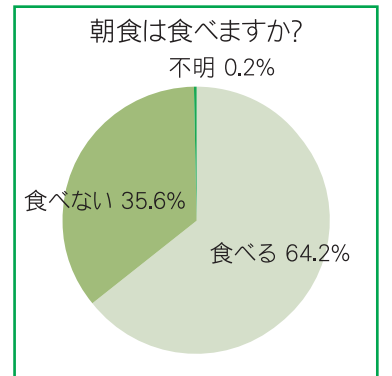
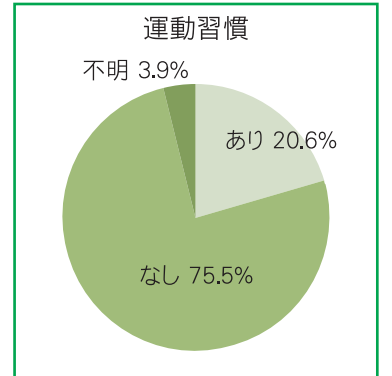
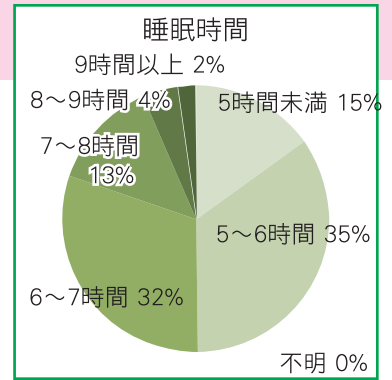
喫煙率は10.6%(男子10.1%、女子0.5%)で、昨年より低下しました。しかし喫煙学生のうち、「やめたい」と思っている学生はわずか13%であり、まだ、やめたいと思うに至っていないことがわかります。また、統計で大学生では3年生で急に喫煙が増えますが、当大学も喫煙者の85%が3・4年生以上となっています。具体的なタバコの害を知らない学生が多く、軽い気持ちで始めたり、ストレス対処のための喫煙が多いようです。タバコは、ニコチン・タール・一酸化炭素をはじめ4,000以上の化学物質を含み、そのうち発がん物質が50種以上含まれます。シロアリ駆除剤のヒ素も含まれています。血管が障害され脳卒中・心筋梗塞などの原因となり、酸素の運搬を妨げて脳の働きが低下します。「22歳まで非喫煙だと、その後喫煙者にならなくて済む」という研究結果があり、特に22歳までの喫煙が、ニコチン依存を生じやすいのでタバコに手を出さないようにしましょう。

また、ほんのわずかな受動喫煙も有害ですが、不快に思っている多くの非喫煙者のことも考えるようにしたいものです。煙は秒速7m以上で広がり、17m以上先まででも広がります。また、その場で吸っていなくても、喫煙者の吐く息の中に、数時間もの間、一酸化炭素が含まれています。非喫煙者は言いたくも言えません。自分自身と吸わない人への影響も考え禁煙に取り組みましょう。自分でやめたり減らすことはなかなか難しいものですが現在はニコチン切れ症状を軽減する薬が発売されており、禁煙しやすくなっています。

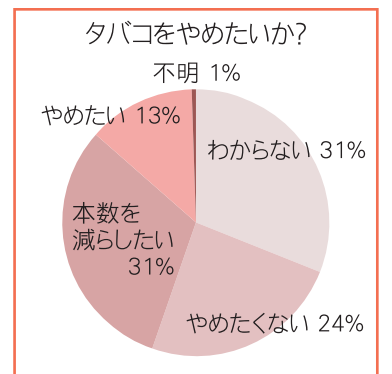
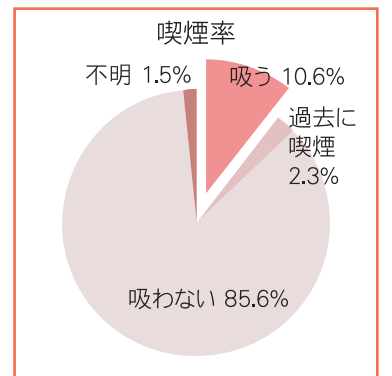
5. 麻疹(はしか)ワクチンについて

高校3年時での調査で、麻疹ワクチンは「受けた」54.4%、「受けていない」16.1%、「わからない」29.5%、でした。日本は麻疹撲滅に至っておらず、現学生は高3で無料追加接種対象となっています。今年は本州の学校関係で集団感染も起こっており、大人が罹ると重症化しやすいため、2回目の受診の有無を母子手帳・家族に聞くなどして必ず確認してください。幼少期の1回だけでは抗体価が低下して罹患することがあります。2回目を受けていない場合は、内科クリニック等で有料で受けられます。

3. 「生活習慣」関連図



4. 「タバコについて」関連図



1. 定期健康診断結果について

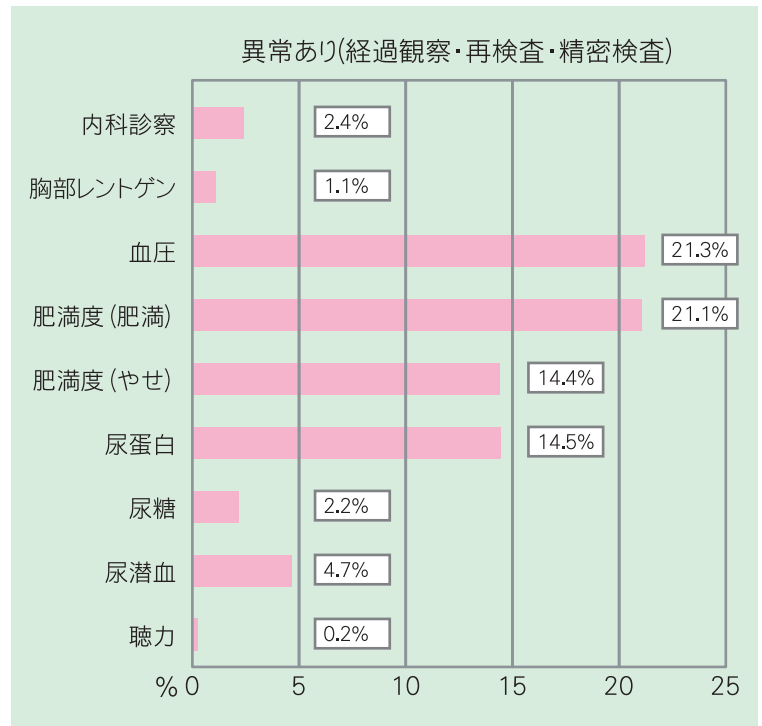
平成24年度学生定期健康診断を4月上旬に実施しました。

受診率95.6%。受診により早くから健康管理の自覚を持つことができます。自身の体調を知り、整えることで、学業や就職活動に積極的に取り組むことができるでしょう。また、健診結果に異常がある場合、改善されるまでは大学から健康診断書が出せません。全員受診し、その後の健康管理に役立ててほしいと思います。

項目は、身長・体重・視力・聴力・血圧・尿(蛋白・糖・潜血)・内科診察・胸部レントゲン(レントゲンは1・4年全員と医療情報学科2年のみ)です。

経過観察・再検査・精密検査の必要な「異常あり」の割合は右記の通りです。再検査の結果を含めて、異常なしの学生がほとんどですが、肥満度と血圧の異常は昨年度よりも高くなっています。

「尿蛋白異常」の増加は、検査方法の変更によるものも影響していると思われ、再検査ではほとんどの学生が問題ありませんでした。



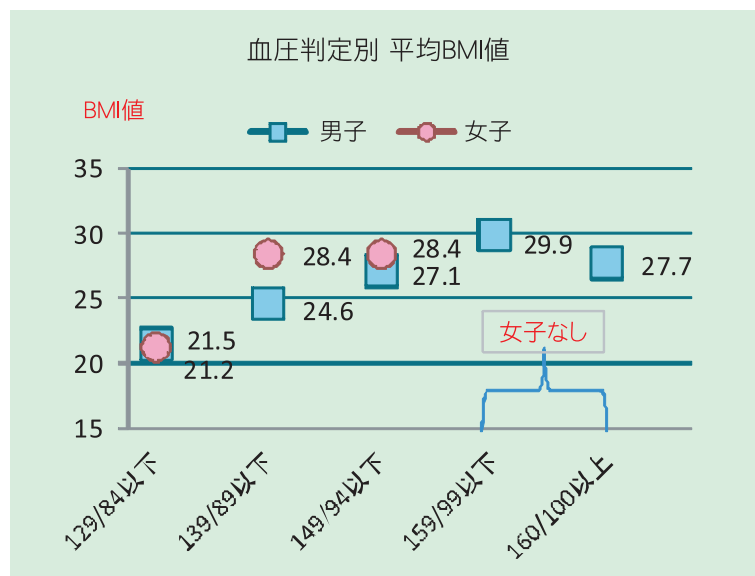
2. 肥満について

肥満が21.1%で昨年より若干増え、それに伴い血圧異常も21.1%と多くなっています(グラフ参照)。肥満の中でも、体格指数(BMI)30以上の「太り過ぎ」は6.8%で男子に多くみられます。「やせ」は、昨年より減少しています。血圧が高い学生はBMIの数値も高く、殆どの学生に肥満があることがわかります。減量は、適正体重になる過程で血圧も正常化するなど良いことがたくさんあります。春から積極的に取り組み、既に減量に成功している学生も多くいますので肥満域の学生は、是非良い生活習慣と運動習慣を身に付けましょう。

*BMI (ボディ・マス・インデックス) は体格指数、肥満指数で、BMIが22の場合に、生活習慣病に最もなりにくいとされています。

「BMI = 体重 (Kg) ÷ 身長 (m)²」
※標準体重を求める時は「身長を2乗し22を掛ける」と出ます。

判定(日本)	BMI指数
やせ	18.5未満
正常	18.5以上25未満
肥満(1度)	25以上30未満
肥満(2度)	30以上35未満
肥満(3度)	35以上40未満
肥満(4度)	40以上

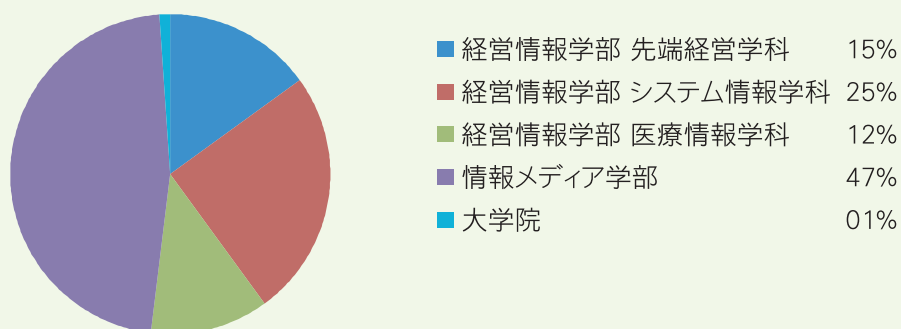


学生図書館利用アンケート集計結果

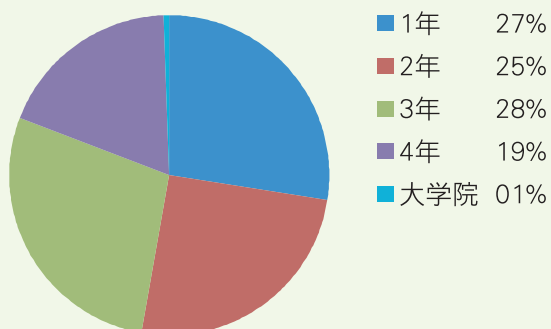
北海道情報大学図書館

この度図書館では、学生の図書館利用実態について把握し、図書館のサービスの向上について検討するため「学生図書館利用アンケート」を10月1日～10月30日までの間で、実施致しました。対象学生者数は1,737人で、回答者が1,182人であり、これは68.3%の回答率となります。今回の学内報では、その集計結果をお伝えいたします。更に詳細については次号以降、順次掲載して参ります。

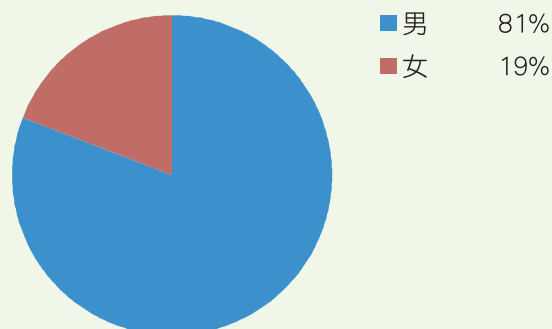
Q1.あなたの所属学部・学科は何ですか。



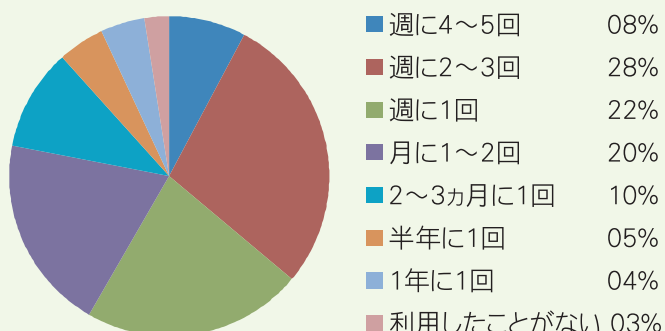
Q2.あなたの学年は何ですか。



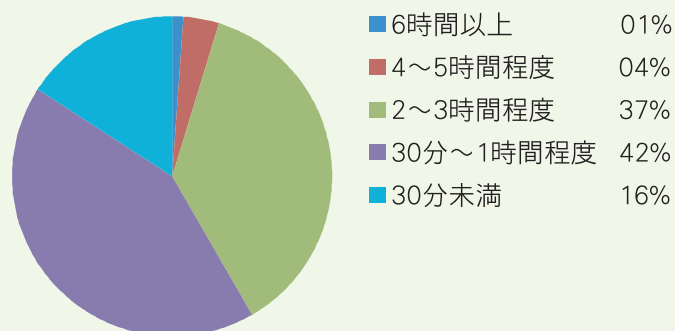
Q3.あなたの性別は何ですか。



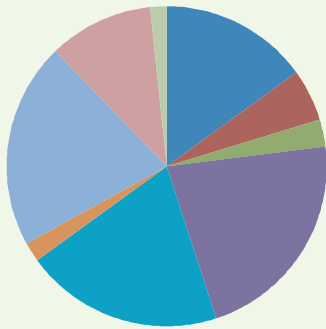
Q4.図書館の平均利用回数はどれくらいですか。



Q5.図書館の1日の平均利用回数はどれくらいですか。

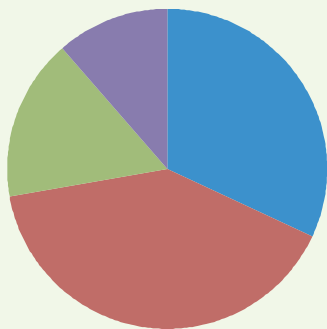


Q6.図書館を利用した目的は何ですか。



■ 図書を利用するため	15%
■ 雑誌・新聞を利用するため	05%
■ ビデオ・DVDの視聴覚資料を利用するため	03%
■ インターネット・メールを利用するため	22%
■ レポート・論文などを作成するため	20%
■ 学術情報資料(データベース)を利用するため	02%
■ 自学・自習のため	21%
■ 休憩	11%
■ その他	01%

Q7.平日の閉館時間は何時までが適当だと思いますか。(現在19時まで)



■ 19時	32%
■ 20時	40%
■ 21時	16%
■ 22時	12%

Q8.土曜の閉館時間は何時までが適当だと思いますか。(現在16時まで)



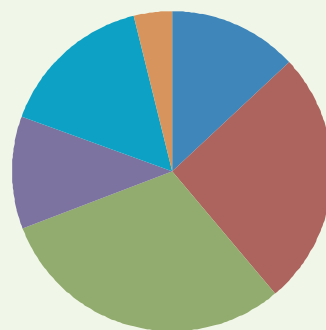
■ 16時	27%
■ 17時	45%
■ 17時45分	28%

Q9.図書館で本を借りたことはありますか。



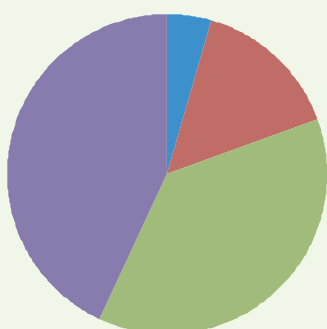
■ ある	60%
■ ない	40%

Q10.図書館で本を借りたことがない理由は何ですか。(複数回答可)



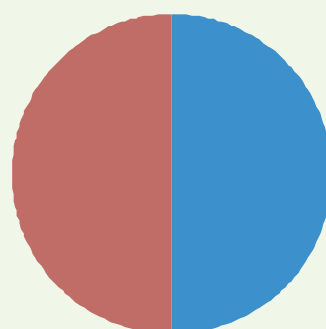
■ 本に興味がないため	13%
■ 本を借りるのが面倒なため	26%
■ 借りたい本がないため	30%
■ 本の借り方がわからないため	11%
■ 借りた本を返却するのが面倒なため	16%
■ 図書館を利用したことがないため	04%

Q11.図書館ホームページについて。



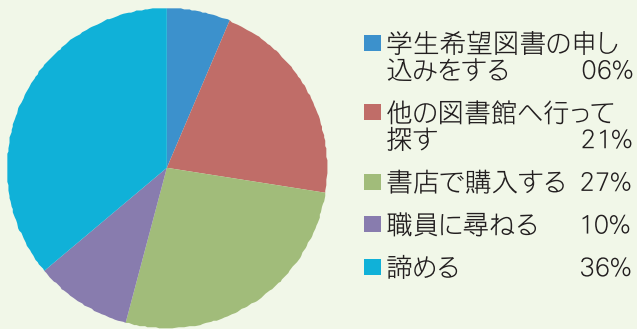
■ よく利用する	05%
■ たまに利用する	15%
■ 数回利用したことがある	37%
■ 利用したことがない	43%

Q12.学生希望図書制度を知っていますか。



■ はい	50%
■ いいえ	50%

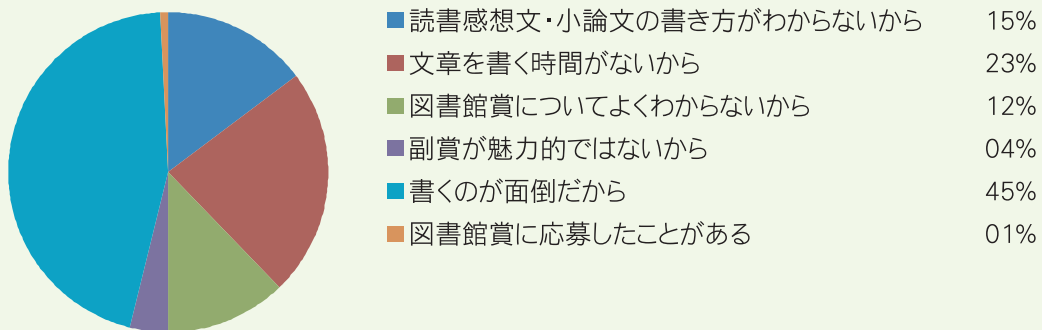
Q13.探していた資料が図書館になかった場合、
どうしていますか。(複数回答可)



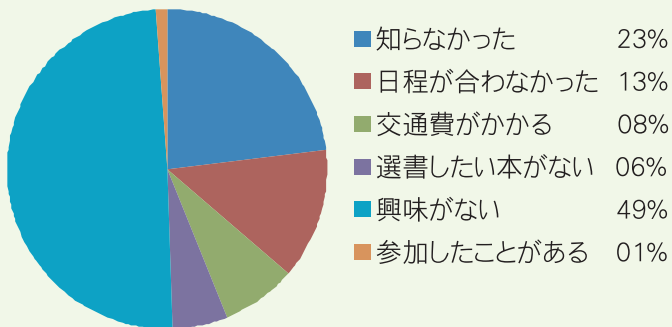
Q14.図書館賞に応募したいと思いますか。



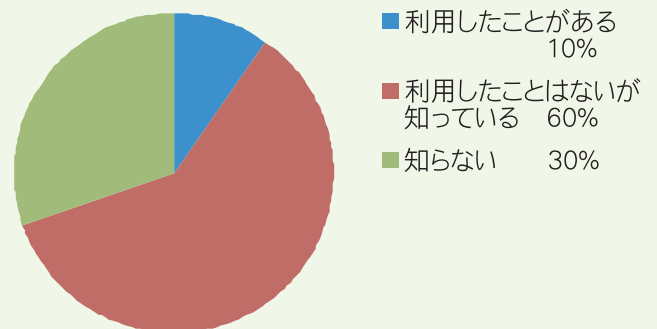
Q15.図書館賞に応募しない理由は何ですか。(複数回答可)



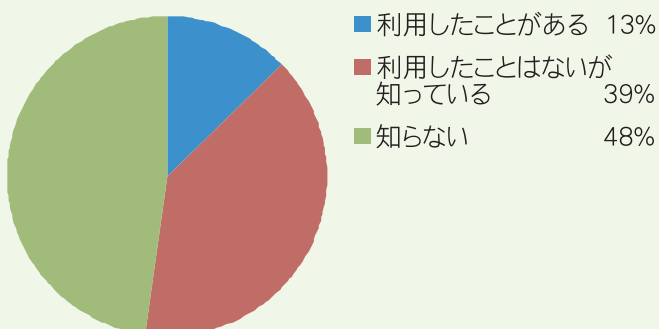
※今までブックハンティングに参加したことがない方にお聞きます。
Q16.ブックハンティングに参加しなかった理由は何ですか。



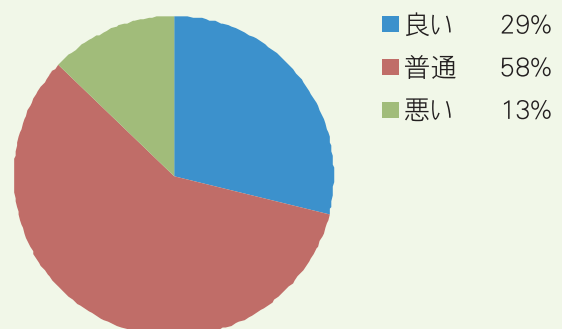
Q17.自動書庫について。



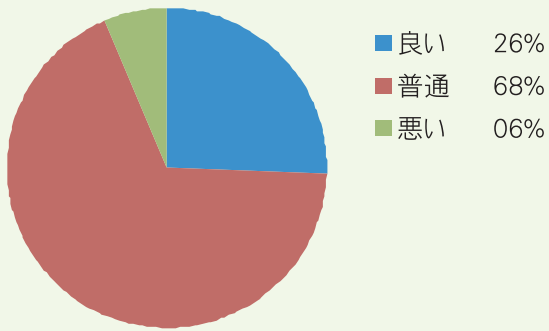
Q18.自動貸出更新装置について。



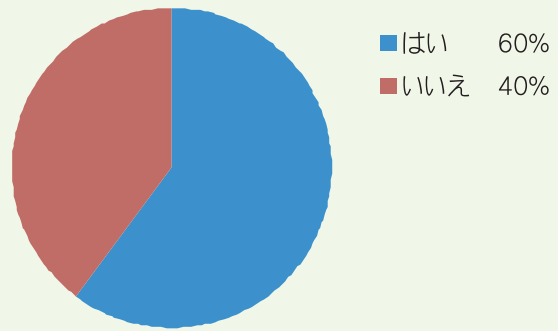
Q19.情報環境(PC)について。



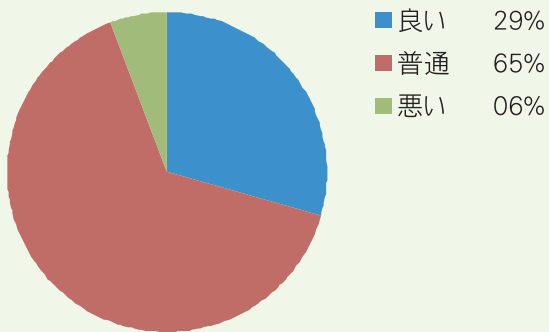
Q20.資料の配置(図書・雑誌・新聞など)について。



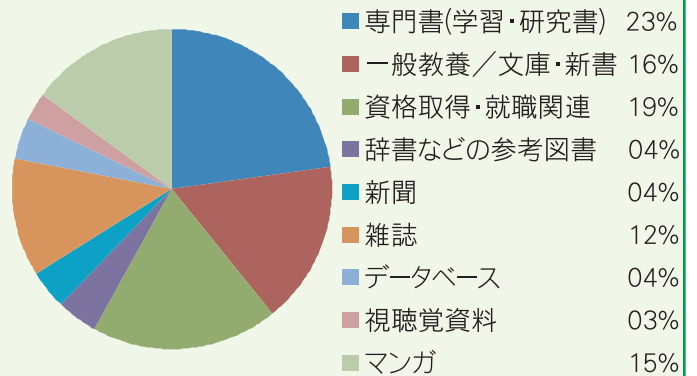
Q21.現在の図書館の図書・雑誌・新聞などの内容で満足していますか。



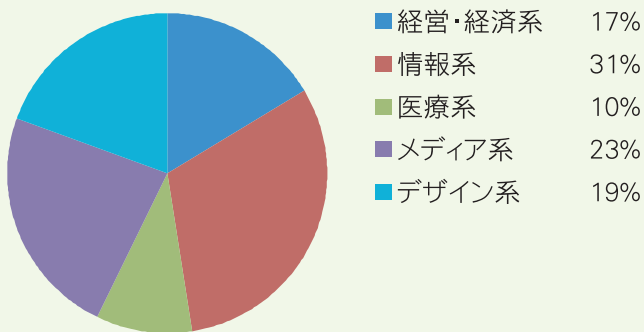
Q22.職員の対応について。



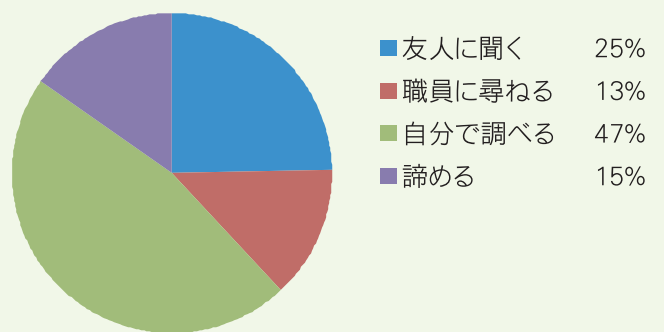
Q23.充実を望む資料の種類について。(複数回答可)



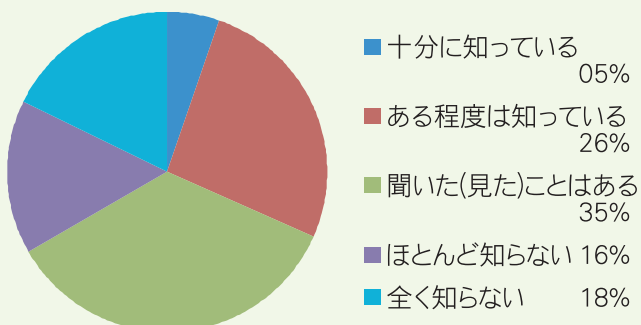
Q24.充実を望む専門書について。(複数回答可)



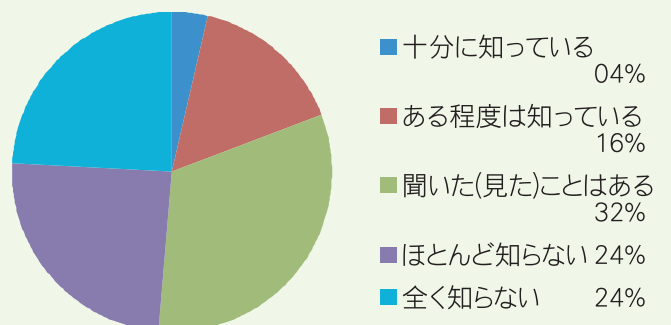
Q25.図書館のパソコンを使用中、わからないことがあった場合どうしていますか。



Q26.北海道情報大学の建学の理念は「情報化社会の新しい大学と学問の創造」ですが、本学の理念を知っていますか。



Q27.北海道情報大学の使命・目標は「学生便覧」に掲載されていますが、本学の使命・目標を知っていますか。



●「日経テレコン21」が利用しやすくなりました

みなさん図書館データベースの「日経テレコン21」は利用したことがありますか。

「日経テレコン21」は、過去30年分の新聞・雑誌記事から国内外の企業データベースなどを収録した就職活動や卒業論文等に非常に役立つデータベースです。

以前までは、利用する際にカウンターで、IDとパスワードの入力の依頼と利用簿への記入が必要でしたが、11月より、IDとパスワードの入力と利用簿への記入が不要になり、好きな時に自由に利用することが出来るようになりました。

調べ方がわからない場合や、不明点は、図書館員にお気軽にお尋ねください。

●プロジェクターとスクリーンの貸出ができます

プレゼンテーションなどの練習に使用するプロジェクターとスクリーンの貸出をはじめました。図書館4階または5階グループ学習室でお使いいただけます。利用申込は図書館4階カウンターにて、利用の1週間前から受付いたします。卒業研究発表の準備などに、ぜひご活用ください。

●情報検索勉強会について

本学の「蔵書検索」「ジャパンナレッジ」や「想」といった、データベースの勉強会を実施しております。ゼミ単位やクラス単位での実施が中心で、本年は10回行っております。友達同士でのお申し込みも受け付けておりますので、気軽にカウンターにおいで下さい。お申し込み当日の実施は難しい場合もありますので、前もって、お申し込みをお願いします。

論文・作文等のテーマの決め方や、文献の探し方を30分ほど勉強いたします。皆さんのおいでをお待ちしております。



HIU-ART

アート部で自分の好きなことを形にしちゃおう！

活動内容

イラスト・動画編集・3DCG・造形・写真・音楽・コスプレなどの幅広い分野で活動中。同人イベントにも参加しています。個人作品もあれば共同作品もあり！趣味が合う友達ができる可能性大。

活動場所

部室棟に入って左奥の部屋で活動中！

平日は毎日活動しています。部室に「見学です！」と元気よく来てくれれば優しい先輩が対応してくれます。気軽に遊びに来てください♪



詳しくは部室まで！！

大学主要行事等

〈7月21日～12月1日〉

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇法人本部◇

《職員》

10月1日付(昇任)
総務課 課長補佐 河村 まき
東京事務所 係長 玉井 徹

◇大 学◇

《職員》

10月1日付(昇任)
学生サポートセンター事務室学生課課長補佐兼入試課課長補佐
古賀 朋子(学生サポートセンター事務室係長兼入試課係長)
学生サポートセンター事務室就職課課長補佐
瀧澤 浩基(学生サポートセンター事務室係長)
総務課庶務係主任
柴田 直子(総務課)
学生サポートセンター事務室就職課主任
谷口 朝子(学生サポートセンター事務室)
教務課教務係主任
上田 さゆみ(教務課)

◆◆ 主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

10月11日 理事会・評議員会
11月26日～30日 有限責任監査法人トーマツ「平成24年度期中監査」

◇大 学◇

7月21日 教員免許状更新講習認定試験
27日 全学教授会
8月 4日～7日 合同試験
5日～7日 A〇入学試験(A日程)
8日～9月18日 夏期休業
20日～29日 夏期集中講義
30日～9月5日 追再試験期間
31日 臨時全学教授会
9月 8日～9日 A〇入学試験(B日程)、高大連携特別A〇入学試験
14日 経営情報学部教授会
カリキュラムアドバイザリーボード会議
19日～20日 スタートアッププログラム
19日 消防訓練
21日 後期授業開講
情報メディア学部教授会
保護者と教員との懇談会
10月 1日 前期末卒業生 学位記授与
3日 大学説明会
5日～11日 国際Webデザインコンテストワークショップ
9日～10日 蒼天祭
12日 経営情報学部教授会
13日 編入学試験(1次募集)
13日～14日 A〇入学試験(C日程)
18日 ハラスメント啓発学習講演会
19日 情報メディア学部教授会
23日～25日 秋の食生活改善運動
26日 全学教授会
11月 3日 A〇セミナー
3日～4日 留学生宿泊研修
9日 経営情報学部教授会
16日 情報メディア学部教授会
17日 教員免許状更新講習認定試験
25日 推薦1期入学試験
30日 全学教授会
12月 1日 編入学試験2次募集
28日 推薦1期入学試験

◇大学院◇

8月 7日 学位論文等中間報告会(兼 北海道情報大学学術奨学生選考会)
9月15日 大学院入学選抜試験(1次募集)
11月22日 大学院研究科委員会

◇通信教育部◇

7月21日～22日 前期印刷・インターネットメディア授業科目試験②
23日 新潟教育センター 大学見学
30日～8月4日 夏期スクーリング(1)
8月 6日～11日 夏期スクーリング(2)
17日 秋期第1回入学者選考
9月 3日 後期I Pメディア授業放映開始
7日 秋期第2回入学者選考
21日 秋期第3回入学者選考
10月 1日 後期インターネットメディア授業開始
4日 秋期第4回入学者選考
19日 平成25年度第1回入学者選考
11月 8日 教育責任者協議会
16日 平成25年度第2回入学者選考
17日～18日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験①

◆◆ 広報活動 ◆◆

《進学相談会》

7月:北海道 5会場(札幌、留萌、帯広、釧路、北見)
8月:北海道10会場(旭川(2)、札幌(2)、函館(2)、苫小牧、帯広、釧路、北見)
秋田県 1会場(秋田)

9月:北海道 6会場(旭川、室蘭、苫小牧、新札幌、小樽、網走)
10月:北海道 3会場(函館、帯広、釧路)
11月:北海道17会場(紋別、函館、札幌(3)、旭川、北見、室蘭、岩内、釧路、新札幌(2)、小樽、帯広、深川、苫小牧、大樹)
埼玉県 2会場(さいたま、浦和)

《高校内ガイダンス》

8月:北海道 2校(帯広三条高校、岩見沢西高校)
9月:北海道 1校(北星学園大学附属高校)
埼玉県 1校(小松原高校)
10月:北海道 5校(北海道栄高校、千歳北陽高校、阿寒高校、南幌高校、札幌大谷高校)
青森県 1校(青森中央高校)
埼玉県 1校(大宮開成高校)
千葉県 1校(敬愛学園高校)
11月:北海道 9校(北星学園女子高校、石狩翔陽高校、恵庭南高校、札幌拓北高校、小樽桜陽高校、札幌丘珠高校、旭川実業高校、遺愛女子高校、札幌龍谷学園高校)
東京都 3校(関東第一高校、東海大学菅生高校、昭和第一高校)
神奈川県 1校(横浜清風高校)
千葉県 1校(柏日体高校)

《高校内進路講演会》

8月:北海道 5校(札幌あすかぜ高校、音更高校、訓子府高校、札幌北高校(定時制)、えりも高校)

9月:北海道 1校(野幌高校)

10月:北海道 3校(旭川大学高校、北星学園女子高校、中標津高校)

11月:北海道10校(札幌大通高校、旭川龍谷高校、倶知安高校、天塩高校、小清水高校、札幌東豊高校、別海高校、函館水産高校、大野農業高校、武修館高校)

《高校出張講義》

7月:北海道 2校(鶴川高校、美瑛高校)

8月:北海道 1校(江差高校)

10月:北海道 2校(阿寒高校、中標津高校)

11月:北海道 5校(雄武高校、月形高校、札幌山の手高校、札幌西陵高校、江別高校)

《高校訪問》

7月:北海道2校

8月:北海道32校、栃木1校、東京都1校、神奈川県3校

9月:北海道21校、埼玉県5校、千葉県3校、東京都4校、神奈川県5校

10月:北海道20校、秋田県23校、埼玉県2校、東京都2校

11月:北海道78校、東京都1校

《オープンキャンパス》

7月22日・29日 本学

8月 4日・19日・26日 本学

6日 北見、釧路

7日 旭川、帯広、函館

10月 7日 本学

11月11日 本学

《A〇入試・奨学金説明会》

9月16日 本学

◇通信教育部◇

《入学説明会:本学独自》

7月:7会場(札幌、旭川、帯広、東京、名古屋、大阪、大分)

8月:4会場(函館、釧路、東京、鹿児島)

9月:2会場(本学、東京)

《合同入学説明会:私立大学通信教育協会主催》

8月:2会場(名古屋、大阪)

9月:3会場(札幌、東京、福岡)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

◇大 学◇

7月21日 図書館見学会(15名)
8月 3日 「トライ☆アス☆カル2012」一行
内閣府特区評価・調査委員会(9名)
9月19日 「江別市民環境講座」一行
10月 1日 江別市議会議員会(32名)
5日～11日 タイ国ラジャマンガラ工科大学国際WDCワークショップ(学生10名、教職員7名)

30日 文部科学省科学技術政策局次長 一行

11月 1日 図書館見学会(18名)

◇広報室来学者◇

7月21日 釧路明輝高校(高大連携大学見学会:生徒3名、教員1名)
8月 8日 クラーク記念国際高校(大学見学:生徒1名)
24日 大曲中学校(大学見学会:生徒44名、教員2名)
9月 7日 札幌東豊高校(大学見学会:生徒69名、教員4名)
14日 石狩翔陽高校(大学見学会:生徒18名、教員4名)
19日 江別高校(大学見学会:生徒49名)
22日 札幌東豊高校(大学見学会:生徒3名、P T A 15名、教員12名)
10月02日 湧別高校(大学見学:生徒1名)
12日 札幌創成高校(大学見学会:生徒34名、教員2名)
北白石中学校(大学見学会:生徒40名、教員2名)
14日 東川高校(大学見学会:P T A 13名)
18日 千歳北陽高校(大学見学会:生徒12名)
24日 上士幌高校(大学見学会:生徒12名)
25日 大森東中学校(大学見学会:生徒6名)
30日 江別第三中学校(大学見学会:生徒14名、教員1名)
11月12日 旭川龍谷高校(大学見学会:生徒12名、教員1名)
27日 小清水高校(大学見学会:生徒24名、教員1名)

学内報について、ご意見、ご要望などがございましたらnanakamado@do-johodai.ac.jpまでお寄せ下さい。